

土木学会 コンクリート委員会
平成 23 年度 第 4 回規準関連小委員会 議事録 (案)

日時：平成 24 年 1 月 11 日 (水) 13:00～17:00

場所：土木学会 A 会議室

出席者 鎌田委員長、上野幹事長、内田、小川、片平、坂本、田中、辻本、寺村、東田、中村、野村、濱田、日比野、堀越、丸岡、三谷、森、山口、横関、綾野 (敬称略)

配布資料

- 4-0 平成 23 年度第 4 回規準関連小委員会議事次第 (案)
- 4-1 平成 23 年度第 3 回規準関連小委員会議事録 (案)
- 4-2 規準関連小委員会 委員構成 (案) 平成 23 年 12 月 13 日現在
- 4-3 表面含浸材の試験方法 (案) JSCE-K-571 の改訂案について
- 4-4-1 けい酸塩系表面含浸材の試験方法 (案) JSCE-K-572
- 4-4-2 けい酸塩系表面含浸材の試験方法 (案) JSCE-K-572 - 解説 -
- 4-5 高流動コンクリートの 500mm フロー到達時間試験方法 (案) JSCE-F 516
- 4-6 鋼材・補強材 WG 関連メモ
- 4-7-1 F.フレッシュコンクリート目次案
- 4-7-2 試験室におけるモルタルの作り方 (案) JSCE-F 505
- 4-7-3 高流動コンクリートの空気量の圧力による試験方法 (空気室圧力方法) JSCE-F 513
- 4-7-4 高流動コンクリートの強度試験用供試体の作り方 JSCE-F 515
- 4-7-5 傾斜管によるプレパックドコンクリートの注入モルタルおよび PC グラウトの
レオロジー定数試験方法 JSCE-F 546
- 4-8 土木学会コンクリート標準示方書の様式および作成方法
- 4-9 ISO TR 16475 関連提案規準に関する対応について (案)
- 4-10 規準編関連 JIS の状況

議事内容

1. 委員長挨拶

鎌田委員長より、年頭に当たっての挨拶とともに、次回の規準編改訂版の発刊時期を 2012 年度内から 2013 年度内に変更することに対する説明がなされた。

2. 前回議事録の確認

資料 4-1 に基づき、前回議事録の確認がなされた。

3. 委員構成の変更

「セメント、水、骨材、混和材料 WG」および「補修材料 WG」の下記 2 名の委員交代が承認された。

BASF ポゾリス 梅沢委員から小川委員へ交代

電気化学工業 寺村委員から入内島委員へ交代

4. 表面含浸材の試験方法について

・ K571 の改訂案について

濱田主査より、資料 4-3 に基づき、K572 の規準化に伴って K571 の適用範囲を改訂する旨の説明がなされた。具体的には、「けい酸塩系」を除いた「シラン系」および「その他」の含浸材を適用の範囲とすることとなる。なお、以下の点について指摘があった。

- 「表 1」における「適用できる含浸材の種類」を削除すべき
- 「表 3」が不完全なので修正すべき（縦線の意味が不明）

・ K572 の提案について

275 委員会綾野幹事長より、資料 4-4-1 および 4-4-2 に基づき、けい酸塩系表面含浸材の試験方法（案）について説明がなされた。会議中における主な指摘事項は下記の通り。なお、その他気付いた点については 1 月 18 日までに各自綾野先生にメール連絡することとなった。

- 「なるべく」という表現を削除すべき
- 「適用範囲」の表現および内容を 571 と合わせるべき
- 「図 4」の試験液の深さ 5mm を「5mm 程度」とすべき
- 「図 4」に試験体表面から容器側面までの距離を明記すべき
- 「注（）」の括弧のフォント

・ 両規準の整合性について

両規準で扱っている同様の試験については、表現を統一すべき箇所が散見されるため、これらの整合については今後の課題とすることとなった。

5. 500mm フロー到達時間試験方法等の改訂について（フレッシュ WG）

日比野主査より、資料 4-5 に基づき 500mm フロー到達時間試験方法（案）に対する修正意見とその対応に対して説明がなされた。なお、この試験は過去に JIS A 1150 に規定されていたものであるが、現在は削除されているものであり、JIS 改訂版には附属書参考として記載される予定。

併せて、資料 4-7-2 高流動コンクリート関連の「充填試験」、「流下時間」についても内容の説明がなされた。これらの三つの規準については次回の常任委員会に諮る予定。

その他のフレッシュコンクリート関連の規準改訂についてもその内容が説明された。ただし、これらについては継続審議となる。主な審議事項は以下の通り。

・ 「試験室におけるモルタル作り方（案）」

- 「適用範囲」に変更の経緯を明記する。
- 規準を引用している試験方法を調査し、改訂による問題が生じないことを確認する必要がある。

・ 「傾斜管による…PC グラウトのレオロジー一定数試験方法」

→ 原文の試験手順の説明が不十分な点がある。原文と修正案を比較する形で再度審議する。

6. 各 WG からの目次案作業状況の報告

鋼材・補強材 WG

椿主査より、資料 4-6 に基づき、現在の作業状況についての説明がなされた。

→ 英文化を進めている規準については、全委員にメール配信されているので、内容を確認していただく。

→ 規準原稿に使用する図形式等については検討が必要。

ISO TR 16475 対応 SWG (補修材料 WG)

濱田主査より、資料 4-9 に基づいて、韓国から提案されている ISO 規準案に対する SWG の検討内容についての説明がなされた。この内容をベースに JCI の ISO 対応委員会へ回答することとなった。

7. 規準編改訂版の書式について

鎌田委員長より、既に各委員へ配布している書式を各自で確認し、使用性や不具合等の有無を確認していただくよう要請がなされた。

8. 規準編改訂版のスリム化について

鎌田委員長より、発刊時期が延期されたこともあり、スリム化についても継続して審議する旨の説明がなされた。

9. その他

上野幹事長より、資料 4-10 に基づき、規準編関連 JIS の状況について説明がなされた。

→ 現在 JIS 化が確定あるいは最終確認段階になっている 11 件に加え、現在検討されている 20 件を含めれば、2013 年版の規準編には 31 件が反映できる。

10. 次回の予定

平成 24 年 4 月 9 日 (月) 14:00~16:00

文責 山口